

地域で考えるポロト自然休養林の活用と保全

北海道森林管理局 後志森林管理署 一般職員 濱崎ちさと
(元 胆振東部森林管理署)

北海道白老町役場 農林水産課 主事 坂本 世悟

1 課題を取り上げた背景

平成23年11月、北海道白老町で開催された森林フォーラムで、地域にあるポロト自然休養林(以下ポロトの森)の活用や保全について、基調講演、地域関係者によるパネルディスカッションが行われました。地元参加者からもポロトの森の活用と保全について、真剣に取り組むべきだと意見が出されたことを受け、ポロトの森の資源を発掘し活用と保全を検討するため、地域関係者の連携・協働を具体化することを目的に、胆振東部森林管理署の呼びかけで協議会を発足しました。



図1 第21回

白老森林フォーラム

2 取組の経過

協議会1年目はポロトの森のどこにどのような資源があるか、季節毎に協議会委員で現地に赴き確認しました。2年目以降、確認した資源の活用を検討しましたが、この過程においてポロトの森の利用者の声も加味することを目的に、平成25年度から、キャンプ場の営業期間にバンガロー・キャンプ場利用者アンケートを実施しました。

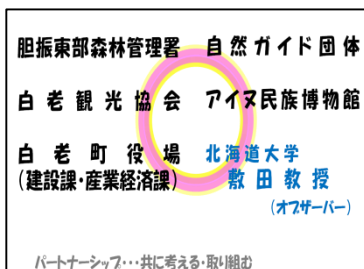


図2 協議会構成員

3 実行結果

協議会で資源を確認することにより、ポロトの森の魅力を再発見することができましたが、同時に地域関係者間でポロトの森に関わる情報共有ができていないこと、森の情報発信が不足していること等の課題も確認できました。これについてすぐにできる対応として、ポロトの森のパンフレットを北海道森林管理局HPへ掲載、町内の駅や商店等に配置させていただいています。

アンケート調査では、利用者の属性、森への評価を把握することができました。利用者から不満に挙げられた点は、地域関係者で改善へ向けた具体的な検討を考えるきっかけとなりました。



写真1 ポロトの森の四季

4 考察

本取組により、各機関どうしの情報共有、意見交換の場が増えました。協議会は昨年度で終了しましたが、協議会という形にとられずとも、地域関係者とポロトの森の保全・活用について検討する関係を構築することができました。今後も関係機関がそれぞれの専門性を活かすことで、課題への取組の幅が広がると思われます。

白老町は2020年に国立アイヌ民族博物館の一般公開が決定し、町内外から今後の展望に期待が高まっています。ポロトの森の資源の活用と保全について、森とその周辺に整備される民族共生の象徴空間との関係も見据え、引き続き地域関係者と検討していく必要があると考えています。今後もアンケート等のデータを蓄積し、具体的な取組に活かせるよう関係者と協働を続けて参ります。